

項目名		説明
ファイル名		ファイル名
書き出すログの内容		書き出すログの内容
用途		書き出すログの用途
増加タイミング		ログの追加タイミング
削除可否		定期的に削除しても問題ないか？ ○ … 削除OK × … 削除不可
記録方式		Text…テキスト(テキストエディタで閲覧可能) Bin …バイナリ(テキストエディタで閲覧不可能)
出力箇所		ログの作成箇所
最大サイズ		ログの最大サイズ
設定箇所		<p>ログに関する設定箇所が存在すれば記載すること。 (例)ServerAgentServiceにおいては、以下のレジストリに設定されている。</p> <p>HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥{モジュール名}</p> <p>なお、設定内容は下記の通り。 -----</p> <p>FilePath … ログファイルのフルパス Generation … ログの管理世代 LogLevel … ログレベル MaxLogSize … 最大ログサイズ(Byte単位で記録) -----</p>
ローテーション	ファイル名	ローテーション後のファイル名
	管理世代	何世代管理か？ #xxxx.log, xxxx.log1 の場合は2世代管理
	タイミング	ローテーションされるタイミング
備考		その他、注意事項

ファイル名	書き出すログの内容	用途	増加タイミング	削除可否	記録方式	出力箇所	最大サイズ	設定箇所	ローテーション			備考
									ファイル名	管理世代	タイミング	
EsmCommon.log	ESMCommonServiceのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥EsmCommon	EsmCommon.log1/EsmCommon.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
Cpu.log	CPU負荷監視プロバイダのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥Cpu	Cpu.log1/Cpu.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
GeneralInformation.log	非監視系プロバイダ(システム情報)のトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥GeneralInformation	GeneralInformation.log1/GeneralInformation.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
Monitor.log	共通機能(プロバイダ)のトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥Monitor	Monitor.log1/Monitor.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
Alert.log	アラート(全般)トレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥Alert	Alert.log1/Alert.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
AlertCim.log	アラート(CIM Indication)トレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥AlertCim	AlertCim.log1/AlertCim.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
AlertEventLog.log	アラート(イベントログ)トレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥AlertEventLog	AlertEventLog.log1/AlertEventLog.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
ReportSetting.log	通報設定プロバイダのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥ReportSetting	ReportSetting.log1/ReportSetting.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
EsmCimIndication.log	CIM Indicationライブラリのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥EsmCimIndication	EsmCimIndication.log1/EsmCimIndication.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
esmsswmi.log	MS-SMBIOSアクセスモジュールのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	500K byte	32bit OSの場合 [HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent] MaxLogSize 64bit OSの場合 [HLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥ESMAgent] MaxLogSize	esmsswmi.log1	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	
esmsmflw.log	ESM System Management Serviceのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	×	Text	%EsmDir%¥log	約6M byte (約60byte/行 * 100000行)	なし	esmsmflw.bak	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時 またはサービスを再起動した時	IPMI対応機種のとき、作成します。
				○	Text	%EsmDir%¥log	512K byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥esmsmsrv	esmsmflw.log1/esmsmflw.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	iLO対応機種のとき、作成します。
esmmib.log	SNMP拡張エージェントのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	500K byte	32bit OSの場合 [HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent] MaxLogSize 64bit OSの場合 [HLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥ESMAgent] MaxLogSize	esmmib.log1	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	
esmfes.log	ファイルシステムプロバイダのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥ESMFS	esmfes.log1/esmfes.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
esmstrg.log	ストレージプロバイダのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥ESMSTORAGE	esmstrg.log1/esmstrg.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
esmfssave.dat	ファイルシステムプロバイダの構成情報及び設定情報	構成情報・設定情報保持用	システム起動/停止時 or 設定情報変更時	×	Bin	%EsmDir%¥dat	約5KB	—	—	—	—	ファイルを削除した場合、下記の設定値が初期値に戻ります。 ・MonitorCycle ・MonitorThreshold ・WarningThreshold ・FatalThreshold また、ファイル削除の前後でファイルシステムの構成が変わっても通報しません。
esmstrgsave.dat	ストレージプロバイダの構成情報及び設定情報	構成情報・設定情報保持用	システム起動/停止時 or 設定情報変更時	×	Bin	%EsmDir%¥dat	約10KB	—	—	—	—	ファイルを削除した場合、下記の設定値が初期値に戻ります。 ・MonitorCycle ・HardDiskSmartMode また、ファイル削除の前後でストレージ装置の構成が変わっても通報しません。
EsmProviderWs.log	Workstation用のセンサ情報トレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥WWS	EsmProviderWs.log1 / EsmProviderWs.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	Work Stationでのみ出力されるログです。 ※ 50シリーズのみ
FallbackMonitor.log	CPU/メモリ縮退監視のトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥FallbackMonitor	FallbackMonitor.log1 / FallbackMonitor.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	
PhysicalMemory.log	メモリ使用量監視プロバイダのトレースログ(物理メモリ監視)	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥PhysicalMemory	PhysicalMemory.log1/PhysicalMemory.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
PageFile.log	メモリ使用量監視プロバイダのトレースログ(ページファイル監視)	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥PageFile	PageFile.log1/ PageFile.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
VirtualMemory.log	メモリ使用量監視プロバイダのトレースログ(仮想メモリ監視)	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	HLM¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAgent¥Log¥VirtualMemory	VirtualMemory.log1/ VirtualMemory.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	
esmnvme.log	ESMNVMeMonitorサービスのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	—	esmnvme.log1/ esmnvme.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	PCIeSSD監視サービス(ESMNVMeMonitor)開始時のみ作成します。
esmnvme.dat	ESMNVMeMonitorサービスの構成情報	構成情報保持用	システム起動/停止時 or 構成情報変更時	×	Bin	%EsmDir%¥dat	約1KB	—	—	—	—	PCIeSSD監視サービス(ESMNVMeMonitor)開始時のみ作成します。
esmssd_N.log	PCIe型SSDデバイス毎の状態ファイル	構成情報保持用	システム起動 or 構成情報変更時	○	Text	%EsmDir%¥log	約4KB	—	—	—	—	PCIeSSD監視サービス(ESMNVMeMonitor)開始時のみ作成します。 搭載PCIeSSD数ぶん作成します(最大16ファイル)。 ファイル名の“N”は、搭載PCIeSSDのDevice Index“0～15”の数値を示します。
WinrmSetting.log	WMI設定スクリプトのログ	開発内部の障害解析	OSインストール時 or スクリプト手動実行時	○	Text	%EsmDir%¥log	約2KB	—	—	—	—	
instsa.log	インストーラの実行状況のログ	開発内部の障害解析	ESMPRO/ServerAgentServiceインストール時	○	Text	%windir%	無し	—	—	—	—	インストールした時に書き込むのみ。運用中には変化しない。 インストールまたはアンインストール実行の一回分の情報だけを記録する(最大約30KB)。
instsa_p.log	サイレントインストール時のインストーラの進捗状況のログ	開発内部の障害解析	BTOでのESMPRO/ServerAgentServiceサイレントインストール時	○	Text	%Temp%	無し	—	—	—	—	インストールした時に書き込むのみ。運用中には変化しない。
esms2d.log	ESMS2DMonitorサービスのトレースログ	開発内部の障害解析	処理実行時 or エラー発生時	○	Text	%EsmDir%¥log	512000 byte	—	esms2d.log1/ esms2d.log2	3	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超え	S2Dディスク監視サービス(ESMS2DMonitor)開始時のみ作成します。
esms2d.dat	ESMS2DMonitorサービスの構成情報	構成情報保持用	サービス開始時	×	Bin	%EsmDir%¥dat	81920 byte	—	—	—	—	S2Dディスク監視サービス(ESMS2DMonitor)開始時のみ作成します。

ファイル名	書き出すログの内容	用途	増加タイミング	削除可否	記録方式	出力箇所	最大サイズ	設定箇所	ローテーション			備考
									ファイル名	管理世代	タイミング	
AmMain.log	全通報手段の通報記録ログ	障害解析	通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work ・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work	100Kbyte	無し	AmMain.bak	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1.“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2. 下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\MainService エントリ: 値の名前    データ型    設定値    説明 MaxLogFile    DWORD    5242880(10進)    ファイル最大容量を100KB→5MBに変更 LogLevel      DWORD    15(10進)    ログレベルを0(Default)→15(Highest)に変更 step3.“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
Amque.log	通報キューファイル作成ログ	障害解析	監視対象のイベントが発生すると増加(最大容量まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work ・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work	100Kbyte	無し	AmQue.bak	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。
AMMXXXXX.log	PolicyServiceのStatusChangeトラップ処理用DLL(AMMStChg.dll)のログ	障害解析	受信情報の設定を行なうと増加(最大容量まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work ・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work	1Mbyte	無し	AMMXXXXX	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1.“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager Socket(R) Service”サービスを停止。 step2.下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\Log エントリ: 値の名前    データ型    設定値    説明 AMMXXXXX_S    DWORD        5242880(10進)    ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMMXXXXX_L    DWORD    15    ログレベルが0から15(最高)に変更 step3.“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager Socket(R) Service”サービスを開始。
AMVMME4V.log	Vista以降OSのイベントログ監視ログ	障害解析	イベントログが発生すると増加(最大容量まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work ・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work	1Mbyte	無し	AMVMME4V	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1.“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2. 下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\Log エントリ: 値の名前    データ型    設定値    説明 AMVMME4V_S    DWORD        5242880(10進)    ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMVMME4V_L    DWORD    15    ログレベルが0から15(最高)に変更 step3.“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
AmPPLink.log	通報テーブル登録、更新、削除反映のログ	障害解析	通報テーブル登録、更新、削除すると増加(最大容量まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work ・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work	1Mbyte	無し	AmPPLink.bak	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1.“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2. 下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\Log エントリ: 値の名前    データ型    設定値    説明 AmPPLink_S    DWORD        5242880(10進)    ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AmPPLink_L    DWORD    15    ログレベルが0から15(最高)に変更 step3.“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
AMCRTCPY.LOG	通報テーブル更新処理のログ	障害解析	通報テーブル更新毎に内容更新するため、増加しない	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work ・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合 出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work	無し	無し	無し	無し	無し	ログは参照可能(テキストエディタ)。但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  (CREATE_ALWAYSでファイルを開くので、OverWrite)

Amrrptevt.log	[アラートマネージャ設定画面]からの障害テスト通報のログ	障害解析	障害テスト通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	Amrrptevt.ba	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。     キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\log     エントリ:     値の名前  データ型  設定値  説明 Amrrptevt.S  DWORD      5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 Amrrptevt.L  DWORD   15  ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。</div>
AMRSCKS.LOG	マネージャ通報(TCP/IP)手段DLLのログ	障害解析	通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	AMRSCKS.b	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager Socket(S) Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。     キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\log     エントリ:     値の名前  データ型  設定値  説明 AMRSCKS.S  DWORD      5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMRSCKS.L  DWORD   15  ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager Socket(S) Service”サービスを開始。</div>
C64IO32.log	IA64とIA32 モジュールのI/Fモジュール (AMC64cal.dll) のログ	障害解析	受信情報の設定を行なうと増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	C64IO32.bak	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager Socket(R) Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。     キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\log     エントリ:     値の名前  データ型  設定値  説明 AMC64cal.S  DWORD      5242880(10進) ファイル最大容量を1M→5MBに変更 AMC64cal.L  DWORD   15  ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager Socket(R) Service”サービスを開始。</div>
AMRRAS.LOG	クリティカルエラー登録、シャットダウン通報手段DLLのログ	障害解析	通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	AMRRAS.bak	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。     キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\log     エントリ:     値の名前  データ型  設定値  説明 AMRRAS.S  DWORD      5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMRRAS.L  DWORD   15(10進) ログレベルを0→15に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。</div>
AMRALVS.LOG	エクスプレス通報サービス(ダイヤルアップ)、ALIVE通報のログ	障害解析	通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	AMRALVS.b	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager ALIVE(S) Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。     キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\log     エントリ:     値の名前  データ型  設定値  説明 AMRALVS.S  DWORD      5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMRALVS.L  DWORD   15(10進) ログレベルを0→15に変更 step3:“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager ALIVE(S) Service”サービスを開始。</div>

AMSTEXML.LOG	通報サービスのメール経由通報用手段DLLのログ	障害解析	通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan¥Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO¥AlertMan¥Work</div>	1Mbyte	無し	AMSTEXML	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMA!ertMan¥log エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 AMSTEXML.S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMSTEXML.L DWORD 15(10進) ログレベルを0→15に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
AMRSMTP.LOG	エクスプレス通報(インターネットメール)のログ	障害解析	通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan¥Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO¥AlertMan¥Work</div>	1Mbyte	無し	AMRSMTP.b	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMA!ertMan¥log エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 AMRSMTP.S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMRSMTP.L DWORD 15(10進) ログレベルを0→15に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
AMREXMN.LOG	通報サービスのマネージャ経由通報用手段DLLのログ	障害解析	通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan¥Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO¥AlertMan¥Work</div>	1Mbyte	無し	AMREXMN.b	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMA!ertMan¥log エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 AMREXMN.S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMREXMN.L DWORD 15(10進) ログレベルを0→15に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
AMREXP.log	通報サービスの通報手段DLLのログ	障害解析	通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan¥Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO¥AlertMan¥Work</div>	1Mbyte	無し	AMREXP.bak	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMA!ertMan¥log エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 AMREXP.S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1M→5MBに変更 AMREXP.L DWORD 15(10進) ログレベルを0→15に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
Amsadm.log	通報設定ツール画面のログ	障害解析	通報設定を行なうと増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan¥Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO¥AlertMan¥Work</div>	1Mbyte	無し	Amsadm.bak	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:通報設定ツールを閉める。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMA!ertMan¥log エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 Amsadm.S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1M→5MBに変更 Amsadm.L DWORD 15 ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:通報設定ツールを起動する。
AMSTEXP.log	エクスプレス通報サービスの通報設定画面のログ	障害解析	通報設定を行なうと増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan¥Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO¥AlertMan¥Work</div>	1Mbyte	無し	AMSTEXP.b	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:通報設定ツールを閉める。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMA!ertMan¥log エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 AMSTEXP.S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1M→5MBに変更 AMSTEXP.L DWORD 15 ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:通報設定ツールを起動する。

AMSALVS1.log	通報サービス(ダイヤルアップ経由)の基本設定画面(Amsalvs1.dll)のログ	障害解析	通報設定を行なうと増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	AMSALVS1.	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。</div> <div>&lt;手順&gt;</div> <div>step1:“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager Socket(R) Service”サービスを停止。</div> <div>step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\log エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 AMSALVS1_S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMSALVS1_L DWORD 15 ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager Socket(R) Service”サービスを開始。</div>
ESMALTMN.LOG	通報サービス(ダイヤルアップ経由)、マネージャからの通報サービス(ダイヤルアップ経由)の基本設定画面(Amsalvs1.dll)のログ	障害解析	通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	無し	無し	無し	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。</div> <div>&lt;手順&gt;</div> <div>step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。</div> <div>step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 DebugFileSize DWORD 131072(10進) ファイル最大容量を1M→128MB(最大)に変更 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\BaseSetting エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 AMST DWORD 31(10進) ログレベルを0→31(最大)に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。</div>
AMCIPMIX.log	通報サービスがIPMIドライバをアクセスのログ	障害解析	開局通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	AMCIPMIX.b	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。</div> <div>&lt;手順&gt;</div> <div>step1:“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager ALIVE(S) Service”サービスを停止。</div> <div>step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\log エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 AMCIPMIX_S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMCIPMIX_L DWORD 15 ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:“Alert Manager Main Service”と“Alert Manager ALIVE(S) Service”サービスを開始。</div>
AMCHTECK.log	通報設定ファイル(AMHTPHBI.INFとAMHTPLOG.INF)をチェックするツール(開局通報時自動的にコールすること)のログ	障害解析	開局通報を行うと増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	AMCHTECK	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。</div> <div>&lt;手順&gt;</div> <div>step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。</div> <div>step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\log エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 AMCHTECK_S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMCHTECK_L DWORD 15 ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。</div>
AMCHTTP.log	通報サービス(HTTPS)通信用DLLのログ	障害解析	通報を行うと増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	AMCHTTP.b	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。</div> <div>&lt;手順&gt;</div> <div>step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。</div> <div>step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\log エントリ: 値の名前 データ型 設定値 説明 AMCHTTP_S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMCHTTP_L DWORD 15 ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。</div>



WebRele.log	通報サービス(HTTPS)関連レジストリ項目を セットアップするDLL(AMCWbReg.DLL)のロ グ	障害解析	通報を行うと増加(最大容量まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場 合  出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan\Work  ・先にServerManagerが規定値でインストールされた 場合  出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO%\AlertMan\Work	1Mbyte	無し	WebRele.bak	2	記録後のファイルサイズが最 大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAAlertMan¥log エントリ: 値の名前  データ型  設定値  説明 WebRele.S DWORD      5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 WebRele.L DWORD  15  ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
AMSTHTTP.log	通報サービス(HTTPS)通報手段DLL(テスト、Open、障害、HeartBeat通報) (AMSTHTTP.DLL)のログ	障害解析	通報を行うと増加(最大容量まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場 合  出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan\Work  ・先にServerManagerが規定値でインストールされた 場合  出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO%\AlertMan\Work	1Mbyte	無し	AMSTHTTP.	2	記録後のファイルサイズが最 大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAAlertMan¥log エントリ: 値の名前  データ型  設定値  説明 AMSTHTTP.S DWORD      5242880(10進) ファイル最大容量を1MB→5MBに変更 AMSTHTTP.L DWORD  15  ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
EXSACEHT.log	ACE-K専用のエクスプレス通報サービス (HTTPS)用通報設定ツールのログ	障害解析	通報設定を行なうと増加(最大容量 まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場 合  出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan\Work  ・先にServerManagerが規定値でインストールされた 場合  出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO%\AlertMan\Work	1Mbyte	無し	EXSACEHT.	2	記録後のファイルサイズが最 大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:専用の通報設定ツールを閉める。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAAlertMan¥log エントリ: 値の名前  データ型  設定値  説明 EXSACEHT.S DWORD      5242880(10進) ファイル最大容量を1M→5MBに変更 EXSACEHT.L DWORD  15  ログレベルが0から15(最高)に変更 step3:専用の通報設定ツールを開始。
AMEncryptMsg.LOG	SMIME/AES暗号化用DLLのログ	障害解析	通報すると増加(最大容量まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場 合  出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan\Work  ・先にServerManagerが規定値でインストールされた 場合  出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO%\AlertMan\Work	1Mbyte	無し	AMEncryptM	2	記録後のファイルサイズが最 大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAAlertMan¥log エントリ: 値の名前  データ型  設定値  説明 AMENCRYPTMSG.S DWORD  5242880(10進) ファイル最大容量を1M→5MBに変更 AMENCRYPTMSG.L DWORD  15(10進) ログレベルを0→15に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
AmEvInfo.LOG	エクスプレス通報対象判別DLLのログ	障害解析	外部より呼び出すと増加(最大容量 まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場 合  出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan\Work  ・先にServerManagerが規定値でインストールされた 場合  出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO%\AlertMan\Work	1Mbyte	無し	AmEvInfo.ba	2	記録後のファイルサイズが最 大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAAlertMan¥log エントリ: 値の名前  データ型  設定値  説明 AMEVINFO.S DWORD  5242880(10進) ファイル最大容量を1M→5MBに変更 AMEVINFO.L DWORD  15(10進) ログレベルを0→15に変更 step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。
EXSACE.log	ACE専用の通報設定ツール画面のログ	障害解析	設定すると増加(最大容量まで)	○	Text	・先にServerAgentが規定値でインストールされた場 合  出力先 : C:\\$ESM%\AlertMan\Work  ・先にServerManagerが規定値でインストールされた 場合  出力先 : C:\\$ProgramFiles¥ESMPRO%\AlertMan\Work	1Mbyte	無し	EXSACE.bak	2	記録後のファイルサイズが最 大ログサイズを超えた時	ログは参照可能(テキストエディタ)。 但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。  ログレベルの変更手順は以下の通り。 ＜手順＞ step1:ACE専用の通報設定ツール画面をしめる。 step2:下記レジストリに以下の値を追加する。 キー:HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMAAlertMan¥log エントリ: 値の名前  データ型  設定値  説明 EXSACE.S DWORD  5242880(10進) ファイル最大容量を1M→5MBに変更 EXSACE.L DWORD  15(10進) ログレベルを0→15に変更 step3:ACE専用の通報設定ツール画面を起動する。

HTPLogInf.log	通報サービス(HTTPS)定義ファイルの解析用のログ	定義ファイル解析	通報テーブルにログ収集対象イベントを読み込むと増加(最大容量まで)	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	1Mbyte	無し	HTPLogInf.b	2	記録後のファイルサイズが最大ログサイズを超えた時	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。</div> <div>但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div> <div>ログレベルの変更手順は以下の通り。</div> <div>&lt;手順&gt;</div> <div>step1:“Alert Manager Main Service”サービスを停止。</div> <div>step2:下記レジストリに以下の値を追加する。</div> <div>キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\ESMAAlertMan\log</div> <div>エントリ:</div> <div>値の名前 データ型 設定値 説明</div> <div>HTPLogInf.S DWORD 5242880(10進) ファイル最大容量を1M→5MBに変更</div> <div>HTPLogInf.L DWORD 15 ログレベルが0から15(最高)に変更</div> <div>step3:“Alert Manager Main Service”サービスを開始。</div>
AMInsCore.log	通報モジュール(アラートマネージャ)のインストール/アンインストールのログ	障害解析	通報モジュール(アラートマネージャ)のインストール/アンインストールを行うと増加。	○	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	無し	無し	無し	無し	無し	<div>ログは参照可能(テキストエディタ)。</div> <div>但し、障害解析用の内部ログのため構造は非公開。</div>
NE00000 ~ NE04999	通報キューファイル(キュー制御DLL AMVMQue.dll)	通報管理用	一つの通報につき、一つファイルを作成。 通報成功すると削除する。(最大5000個作成)	×	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	無し	無し	無し	無し	無し	参照不可。
NEWFILE1、NEWFILE2	通報キューファイルの管理ファイル	通報管理用	監視対象イベントが発生すると増加し、通報キューファイルを作成すると減少する	×	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	無し	無し	無し	無し	無し	参照不可。
SCHFILE1、SCHFILE2	スケジュールの管理ファイル	通報管理用	通報が発生すると増加し、通報成功すると減少する	×	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work</div>	無し	無し	無し	無し	無し	参照不可。
000001～000200	マネージャ通報(TCP/IP In-Band)、マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)の通報データ	内部のインタフェースとして使用	マネージャ通報(TCP/IP In-Band)、マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)する毎にファイルの一つ作成	×	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work\SCKフォルダ配下</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work\SCKフォルダ配下</div>	ファイル1個の最大値は、10KByteで最大200個まで保持	無し	無し	無し	無し	参照不可。
000001～000200	エクスプレス通報サービス(ダイヤルアップ)、ALIVE通報の通報データ	内部のインタフェースとして使用	エクスプレス通報サービス(ダイヤルアップ)、ALIVE通報する毎に一つ作成	×	Text	<div>・先にServerAgentが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ESM\AlertMan\Work\ALVフォルダ配下</div> <div>・先にServerManagerが規定値でインストールされた場合</div> <div>出力先 : C:\ProgramFiles\ESMPRO\AlertMan\Work\ALVフォルダ配下</div>	ファイル1個の最大値は、10KByteで最大200個まで保持	無し	無し	無し	無し	参照不可。